

生まれた子どもが元気にたくましく育つための環境整備に関するPDM

プロジェクトの要約	指標	入手手段
上位目標 生まれた子どもが元気にたくましく育つ	子どもが元気でたくましく育っていると 感じている親の割合	アンケート調査
プロジェクト目標 子どもの事故を予防する	不慮の事故死亡率	人口動態統計
成果（条件） 1 家庭内事故防止プロジェクト 家庭内の事故が減少する 2 屋外事故防止プロジェクト 屋外での事故が減少する 3 地域における子どもの事故防止プロジェクト 地域で子どもの事故防止に取り組む 4 応急処置法教育プロジェクト 事故発生時に応急処置ができる 5 事故の情報の収集と発信 事故防止に必要な情報が一元的に収集・発信できる	} 乳児のSIDS死亡率 } 幼児（1～4歳）の死亡率  事故防止に取り組む市町村の数  心肺蘇生法を知っている親の割合	衛生統計年報 衛生統計年報  アンケート調査  アンケート調査
活動  1 家庭内事故防止プロジェクト 1-1 事故防止パンフレットの作成配布 1-2 講演会・シンポジウムの開催（チャイルドシート装着実技指導など） 1-3 母子健康手帳に安全チェックシートを挿入（健診時点検）  2 屋外事故防止プロジェクト 2-1 発達に応じた安全指導マニュアルの作成 2-2 新聞紙上の特集記事など、キャンペーンの実施 2-3 事故防止についてのイベント（標語の募集、ポスター・サインの募集、作成、パンフレットの作成、講演会、シンポジウムの実施）  3 地域における子どもの事故防止プロジェクト 3-1 玩具の点検日を設置する 3-2 地域の環境点検を行い危険箇所を表示する 3-3 県における子どもの事故防止協議会の設立  4 応急処置法教育プロジェクト 4-1 事故Q&A110番の設置 4-2 応急処置指導者育成（保健所、消防、警察等関係者でチームを作って実施） 4-3 応急処置の実技研修が受けられる機関のリスト作成  5 事故の情報の収集と発信 5-1 事故の情報収集と分析を行う ・死亡小票からの死亡者数の把握 ・定点病院を設置し、定期的に事故患者の報告を行う ・救急車の搬送件数、及び搬送理由 ・警察による事故報告を収集する ・レセプトによる事故に関する調査 ・アンケート調査（家庭における事故、事故に対する意識変容） 5-2 事故情報の発信	投入  テレビ、ラジオ 新聞、広報 親、祖父母、先輩親 医師 保健師 保育士 母子保健推進員 消防隊員 教師 警察 自治会 育児サークル	

生まれた子どもが元気にたくましく育つための環境整備に関するPDM

プロジェクトの要約	指標	入手手段
上位目標 生まれた子どもが元気にたくましく育つ	子どもが元気でたくましく育っていると 感じている親の割合	アンケート調査
プロジェクト目標 予防接種率の向上	麻疹の患者発生数	感染症発生動向調査
成果（条件） 1 保健医療関係者への啓発プロジェクト 保健医療関係者の取り組みがより積極的 になる 2 未接種児への勧奨プロジェクト 未接種児が減る 3 一般への啓発プロジェクト 皆が感染症・予防接種の基礎知識を持つ 4 受けやすい環境整備プロジェクト いつでもどこでも予防接種が受けられる	専門家の勉強会・研修会の回数  1歳6ヶ月までに3種混合・麻疹の予防 接種、BCG接種を終了している者の割合  感染症・予防接種の基礎知識を持ってい る人の割合  無料で受けられる予防接種の数	担当者へのアンケート  小児保健協会報告書  アンケート調査  市町村への調査
活動 1 保健医療関係者への啓発プロジェクト 1-1 市町村予防接種担当者に対する研修会を開催する 1-2 医療従事者全般に対する研修会を実施する 1-3 医師会において小児科以外の医師を対象にした予防接種の研修会を行う 2 未接種児への勧奨プロジェクト 2-1 保育所入所時に接種状況の確認を行い、接種を勧奨する 2-2 健診の場で未接種児に未接種票を発行（医療機関で接種後、医療機関から未接種票を市町村 へ転送してもらう） 2-3 市町村における乳幼児医療費助成申請時に、接種状況の確認、接種勧奨を行う 3 一般への啓発プロジェクト 3-1 マスコミを用いてキャンペーンを行う（テレビのスポット、、論壇への投稿、体験者の声等） 3-2 健診会場での啓発（健診会場にポスター、冊子、パンフレットの設置） 3-3 市町村広報に予防接種の情報を載せる 4 受けやすい環境整備プロジェクト 4-1 定期接種の自己負担をなくす 4-2 外来で予防接種が受けられるようにする 4-3 休日にも受けられる医療機関を設ける	投入  はしか"0"プロジェクト委員会 保健所（保健師、医師） 市町村担当者（担当、保健師） 医師会（病院、診療所） 健診会場の医師、保健師、 母子保健推進員、事務担当 保育所（保育士） 小児保健協会 看護協会 母子保健推進員 婦人会 新聞・TVの社会面担当者 乳幼児医療費申請窓口の職員 市町村転入窓口の職員  健診会場 予防接種会場 医療機関 保育所 幼稚園 保健所	

生まれた子どもが元気にたくましく育つための環境整備に関するPDM

プロジェクトの要約	指標	入手手段
<b>上位目標</b> 生まれた子どもが元気にたくましく育つ	子どもが元気でたくましく育っていると 感じている親の割合	アンケート調査
<b>プロジェクト目標</b> 好ましい生活習慣の獲得を図る	肥満率（ローレル指数160以上）	調査 学校保健統計調査報告
<b>成果（条件）</b> 1 食生活改善プロジェクト 子どもがバランスのよい食事を摂ることができる 2 運動推進プロジェクト 子どもが適度な運動をすることができる 3 心の健康に関するプロジェクト 子どもが心の健康を保つことができる 4 う蝕予防プロジェクト 子どものう蝕が減る	バランスのとれた食事を摂っている家庭の割合  一定以上の運動をしている子どもの割合  ゆったりする時間のもてる子どもの割合  3歳児のう蝕有病者率	アンケート調査  アンケート調査  アンケート調査  3歳児歯科健康診査
<b>活 動</b> 1 食生活改善プロジェクト 1-1 「簡単に楽しくできるバランスのとれた家庭料理」の普及（バランスキッチン教室、冊子、パンフレット、インターネットの利用） 1-2 学校での栄養教室（料理コンテスト、小中学校） 1-3 外食栄養成分の知識普及（冊子、パンフレット） 2 運動推進プロジェクト 2-1 市町村における遊び方を教えてくれる教室の開催 2-2 学校で健康のための運動に関する知識を提供 2-3 自治会の子供会育成への支援 3 心の健康に関するプロジェクト 3-1 親を対象にした「子どもの心の健康」に関する教室、講演会、シンポジウム等の開催 3-2 塾や習い事の賢い活用の仕方に関する教室等の情報提供を図る 3-3 学歴以外の活動を評価するような教育システムの推進 4 う蝕予防プロジェクト 4-1 フッ化物洗口についての普及啓発（研修会、講演会、マスコミを使ったキャンペーン等） 4-2 仕上げ磨き指導の場を増やす 4-3 不正咬合に関する知識の普及	<b>投入</b> 親、祖父母 栄養士 保健師 医師 歯科医師 歯科衛生士 養護教諭 母子保健推進員 保健体育教諭 婦人団体・PTA・老人会など 食生活改善普及員 民生委員 心理カウンセラー 幼稚園の教諭 保育士 マスコミ  健診会場 健康展会場 保育所 就学説明会の会場 幼稚園 学校 婦人会活動の場 公民館などの調理実習室 子育て支援センター 子育て相談室 学童クラブ	

生まれた子どもが元気にたくましく育つための環境整備に関するPDM

プロジェクトの要約	指標	入手手段
<b>上位目標</b> 生まれた子どもが元気にたくましく育つ	子どもが元気でたくましく育っていると 感じている親の割合	アンケート調査
<b>プロジェクト目標</b> 子どもが楽しく遊び豊かにたくましく育つ	楽しく遊ぶことができる子どもの割合	アンケート調査
<b>成果（条件）</b> 1 いろんな遊びが経験できるプロジェクト 子どもがいろんな遊び方を楽しめる 2 遊びを考えるプロジェクト 子どもが遊べる機会が増える 3 安全な遊び場を考えるプロジェクト 子どもが安全に遊ぶことができる場所が 増える 4 自然環境を身近に考えるプロジェクト 自然に触れる機会が多くなる	野外での遊びを楽しむ子どもの割合  子どものためのイベントの数  安心して遊べる場所の数  自然に触れる機会がある子どもの割合	小学校へのアンケート 調査 イベントの実態調査  実態調査  アンケート調査
<b>活動</b> 1 いろんな遊びが経験できるプロジェクト 1-1 野外遊び方体験教室の開催 1-2 スポーツ・レクの集団遊び大会の開催 1-3 遊びフェスタの開催  2 遊びを考えるプロジェクト 2-1 子ども達の遊びの企画の実施 2-2 子ども主体的な遊びを認める大人が増える運動 2-3 遊ぶ時間が増える運動  3 安全な遊び場を考えるプロジェクト 3-1 学校内解放運動等を推進 3-2 地域の安全環境整備運動 3-3 年齢別遊具等の設置  4 自然環境を身近に考えるプロジェクト 4-1 子どもに自然を残す運動 4-2 自然を考慮した環境整備運動 4-3 自然触れ合い型公園の建設	<b>投入</b>  親、祖父母 教員（校長を含む） 放課後児童指導員 社会福祉協議会 スポーツレク委員 行政 警察 自治会 ボランティア	

生まれた子どもが元気にたくましく育つための環境整備に関するPDM

プロジェクトの要約	指標	入手手段
<b>上位目標</b> 生まれた子どもが元気にたくましく育つ	子どもが元気でたくましく育っていると 感じている親の割合	アンケート調査
<b>プロジェクト目標</b> 障害や慢性疾患を持つ子どもが地域で生活できる	障害を持っていても在宅で生活を楽しむ ことができる子どもの割合	アンケート調査
<b>成果（条件）</b> 1 家族支援プロジェクト 家族の負担が大きくない 2 医療福祉施設整備プロジェクト 近隣の施設で訓練や相談が受けられる 3 環境整備プロジェクト 障害児が外出しやすい環境が整備される 4 地域ネットワークプロジェクト 地域の人々が障害児のことを理解する	在宅サービスに関する満足度 満足している保護者の割合 在宅支援訪問及び外来療育等指導件数 地域生活支援件数、施設一般指導件数 障害児によるバリアフリー度 障害児に対する理解度	アンケート調査 アンケート調査 障害児（者）地域療育 支援事業実施状況 アンケート調査 アンケート調査
<b>活動</b> 1 家族支援プロジェクト 1-1 家族が効果的にサービスを受けられるようなケアマネージャーによる総合調整 能力の強化 1-2 地域療育支援事業の普及拡充 1-3 障害児学童保育の制度化 2 医療福祉施設整備プロジェクト 2-1 保健相談センターにおける障害の早期発見・早期治療の強化 2-2 子ども希少疾患・障害情報センターの設置 3 環境整備プロジェクト 3-1 送迎ボランティア・ガイドヘルパーなどマンパワーの充実 3-2 障害児の余暇活動の場の確保 3-3 公的機関のバリアフリー化 4 地域ネットワークプロジェクト 4-1 学校や保育所での医療的ケアのガイドラインの策定 4-2 子ども療育支援ネットワークの設立 4-3 学校・地域社会・職域での福祉体験学習等、福祉教育の推進		<b>投入</b> 小児科医 （希少疾患専門医） 教諭、養護教諭 保健師 療育専門職 行政（市町村、県、国） 福祉ケアマネージャー コーディネーター 情報処理専門家 栄養士 地域療育等支援事業委託 施設 保健所 親の会 教育委員会 福祉事務所 社会福祉協議会 県障害福祉課 県健康増進課 療育施設 保育士会 ボランティア団体 自治会